

Sales-people think [^ they know ^] — research shows [that it is harder <to say
 “no” to someone [who touches you] / when ^ making a request>] — / **but**
 not everyone is happy about being touched by a stranger.
 Edward T.Hall, / an **anthropologist**, / says [^ the Japanese handle their
 uneasiness about being **packed** into **public** places / by **avoiding** eye
 contact and drawing within themselves **emotionally**, / thus “touching
 without feeling].”

内容Check!

- 問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。
- Sales-people believe that it is harder for someone to say “no” to a request if they are touched by the other person. ()
 - Research shows that everyone likes being touched. ()
 - When they have to accept close contact with strangers, the Japanese try to make eye contact with people around them. ()

覚えておきたい表現

make A do 「A に…させる」(使役動詞 make)

ℓ.5 : or does physical contact **make** you **feel** awkward and tense? 「それとも身体的接触で、居心地が悪く緊張した思いをしているだろうか」
 ・ここでは、人間以外の無生物を主語にして**無生物主語 + make + A + do**という形で使われている。直訳すると「それとも、体が触れ合うことはあなたを気詰まりで窮屈な思いにさせるだろうか」だが、主語の部分を副詞的に「体が触れ合うと」と訳すと自然な日本語になる。一般に無生物主語は、副詞的に**条件**として訳すとわかりやすい。
 Ex. Talking with Jane always **makes** me **feel** relaxed. 「ジェーンと話をすると、私はいつもくつろいだ気持ちになる。」

cannot (can't) help …ing 「…せざるを得ない」

ℓ.7 : we **can't help touching** each other 「私たちはお互いに触れざるを得ない」
 ・cannot (can't) help …ing 「…せざるを得ない」: help には「～を避ける」という意味があり「…するのを避けられない」と考えるとわかりやすい。cannot but do, cannot help but do も類似の表現。
 Ex. When I see something sweet to eat, I **couldn't help feeling** like eating it. 「私は何か甘い食べ物を見ると、それを食べたい気にならずにはいられない。」

force A to do 「A に無理やり…させる」

ℓ.11 : their crowded cities **force** them **to be** jammed into subways and trains 「混雑した都会では、人は地下鉄や電車に無理やり詰め込まれる」
 ・force A to do 「A に無理やり…させる」: この無生物主語の文を直訳すると「日本の人口過密な都市が、日本人に地下鉄や電車に詰め込まれることを強制する」という不自然な日本語になる。前述の make A do と同様に、主語の部分を**条件**のように訳そう。
 Ex. The long recession **forced** the company **to give up** business. 「長期の不況のため、その会社は廃業せざるを得なかった。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

- 接触に対する好悪の個人差
 - 販売員の考え方: 研究によると、自分に触れている相手には「ノー」と言いにくい。
 - ◆ ℓ.3 **but** 「しかし: 逆接」
 - 他人に触れられることを喜ばない人もいる。
 - (証明) 自分が人込みの中にいる時の気持ちを考えよう。
リラックスしているか。
 - ◆ ℓ.5 **or** 「あるいは: 列挙・追加」
 - 緊張しているか。
 - 接触を好まない人たちの対処法
 - ◆ ℓ.7 **Take ~ for instance** 「例として~を挙げる: 例」
 - 例えば、満員のエレベーターを考える。
 - 人々は触れ合った状態を我慢するが、その際のルールは「触れ合うのは肩からひじまでだけ」。
 - 日本は人の体に触れない社会だが、満員の地下鉄や電車に乗らざるをえない。
- 人類学者の研究: 満員状態で触れ合っている時の日本人のルール
 1: 目を合わせることを避ける。2: 感情を自分の内面にこもらせる。
 このように、「感情を持たずに触れる」状態を保つ。→ 不快さをうまく処理。

背景知識

●スキンシップの大切さ

本文では男性の方が他人に触れられると動揺するということが書かれていたが、男性に限らず、人間は元来、他人に接すると恐怖や不安を感じるとされる。しかし、幼少期に親とスキンシップをすることで恐怖と不安の感覚は払拭され、むしろ触れ合いを心地よいと思うようになっていく。反対に幼少期に親から触れられなかった場合、子供はスキンシップの心地よさを知らずに育つことになる。一説によると、そのような親子関係のもとで育ってきた子供はスキンシップが心地よいものとわからないため、成長した時に他人との関係がうまく築けなくなることもあるという。幼少期の親から子へのスキンシップは子供が大きくなってからのメンタルヘルスに大きく影響するという指摘されている。幼少期に親からスキンシップを受けることが少ない場合、自閉の傾向があったり自尊心が低かったりすることがあり、また、多動や暴力などの情緒障害になるという調査結果もある。
 [深めたい人に]: 山口創『皮膚感覚の不思議』(講談社, 2006年)